Operation Guide 3753

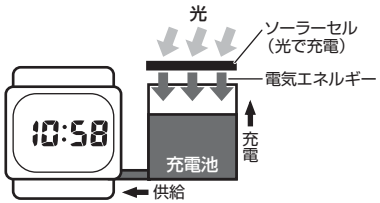
CASIO

十分に光を当ててご使用ください

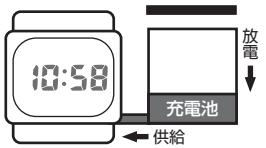
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

1. 光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



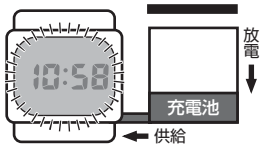
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電池の容量が減って機能が使えなくなります。

2. ライト（表示用照明）をたくさん使うと

●ライトを多用すると充電池の容量は早く減ります。



ライト点灯１回分の電力を回復するには、以下の光を当てて充電する必要があります。

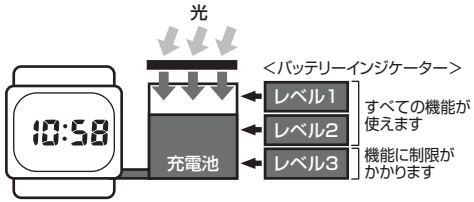
●晴れの日の窓際＝約５分

●蛍光灯下の室内＝約 50 分

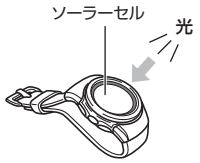
オートライト機能を使うと、頻繁にライトが点灯する状態になりますのでご注意ください。

3. 時計に光が当たるようにしましょう

●電池容量を示すバッテリーインジケーターがレベル３になると機能に制限がかかりますので、レベル１、レベル２を保つように光を当ててください。

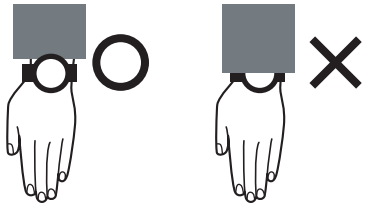


●腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

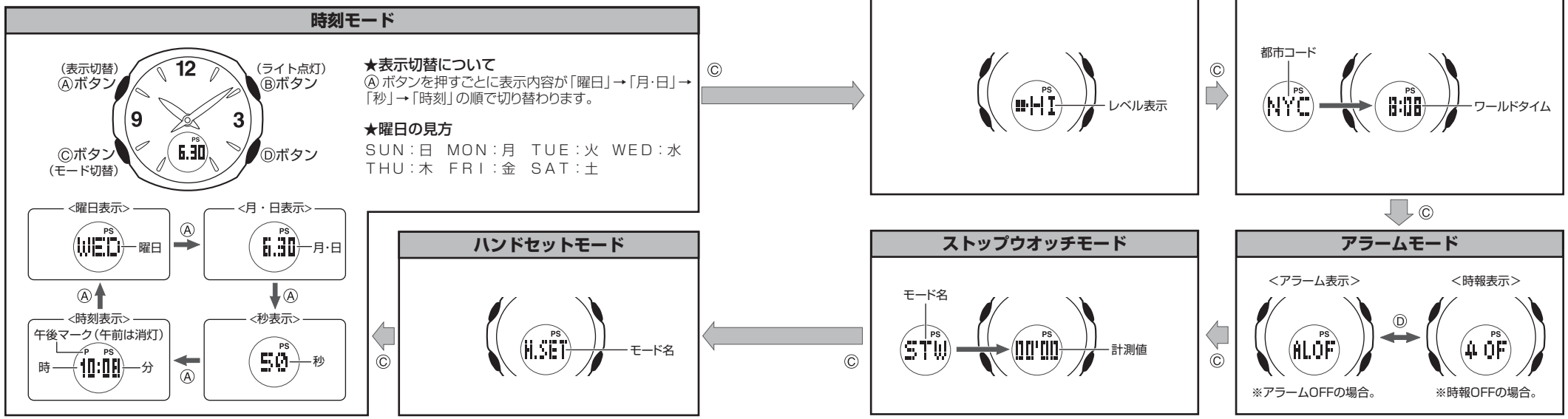
●腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

操作のしくみと表示の見方

Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。
※バッテリーモード、アラームモード、ハンドセットモードのまま２～３分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。



電源について

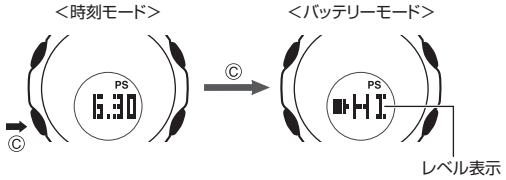
本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

ご注意

二次電池が消耗して時計機能が停止すると（レベル4）、設定データは消去されます。

●電池残量の確認

二次電池の残量を確認するには、バッテリーモードに切り替えます。
バッテリーモードに切り替えるには、時刻モードのときに Ⓒ ボタンを１回押します。
※時刻モードに戻すには Ⓒ ボタンを５回押します。



レベル1	PS HI	すべての機能が使用可能
レベル2	PS MID	すべての機能が使用可能
レベル3		液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、電波受信不可、運針不可
レベル4		時計機能停止（時計発振不可）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、二次電池の残量が一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル３になると表示が点滅開始して、針が 12 時の位置で停止します。
※レベル４になっても再度充電を行なうと使用できます。
※レベル４から充電したときは、レベル３になると表示が点灯し、デジタル部の時刻・カレンダーのみ合わせることができます。アナログ部（針）はレベル２になると合わせることができますので、デジタル部と同じ時刻に合わせてください。
※レベル２またはレベル１になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約９ヶ月動き続けます。

１日あたりの使用量
- ライト：1.5 秒間
- アラーム報音：10 秒間
- 電波受信：４回

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

- 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル4 ➡ レベル3	レベル3 ➡ レベル2	レベル2 ➡ レベル1
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約3時間	約42時間	約12時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約7時間	約159時間	約44時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約11時間	約257時間	約71時間
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約124時間	― ― ―	― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

●充電必要サインについて

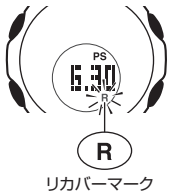
レベル３状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 運針
- 電波受信

このような場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



※リカバーマーク点滅中にレベル３の状態になった場合、バッテリーモードの表示は “LO” となります。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

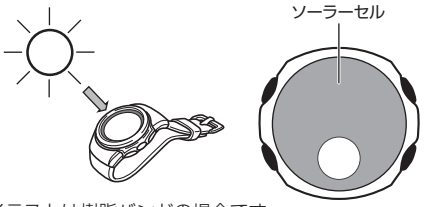
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例）時計の置き方



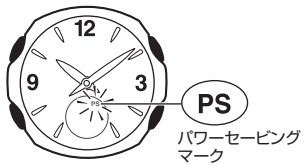
※イラストは樹脂バンドの場合です。

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」を ON に設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後 10 時～午前６時の間、暗いところで本機を約１時間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。
  ※ ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。
- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡アラーム・時報の報音は行ないません。
  アナログ針は 12 時の位置で運針を停止し、自動受信も行ないません。
  ※ 時計機能は正常に作動しています。



●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「● ライトを点灯させる」）のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大２秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能の ON ／ OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「■ セットのしかた」からの操作をご覧になり、パワーセービング機能を OFF にしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

ライト点灯について

本機にはLEDライトがついており、暗いときにライトを点灯させて時刻を見ることができます。また、時計を傾けると暗いときにライトが点灯するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して点灯させる
～手動点灯～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓑ ボタンを押すとライトが点灯します。

※点灯時間は約1.5秒間と約3秒間のいずれかを選ぶことができます（「■ 点灯時間の設定」参照）。

※ オートライトOFFのときもⒷボタンを押すと点灯します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

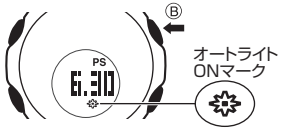
■ 時計を傾けて点灯させる
～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけでライトが点灯する便利なフルオートライト機能です。

※明るいときは、自動点灯しません。

暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約1.5秒間または約3秒間点灯します。

準備：セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、Ⓑ ボタンを約2秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、Ⓑ ボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●ライトを点灯させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈ご注意〉

- 直射日光下では点灯が見えにくくなります。
- 点灯中に操作確認音の鳴るボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- ライト点灯後、時計を傾けたままにしておいても、点灯は約1.5秒間または約3秒間のみとなります。
- 二次電池の残量がレベル3の状態になると、自動的にオートライトOFFになります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても点灯することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。
- ハンドセットモードで針を合わせているときは、オートライトは点灯しません。

■ 点灯時間の設定

1. セット状態にする

時刻モードのとき

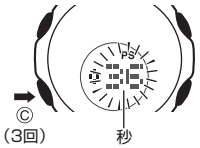
Ⓐボタンを約2秒間押します



➡都市コードが点滅します。

2. 「秒」を点滅させる

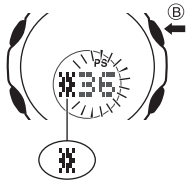
Ⓒボタンを3回押します



➡「秒」が点滅します。

3. 点灯時間を選ぶ

Ⓑボタンを押します



➡Ⓑ ボタンを押すごとに約1.5秒間と約3秒間が切り替わります。

※ ⁘ マーク＝約1.5秒間
※ ⁙ マーク＝約3秒間

4. セットを終わる

Ⓐボタンを押します

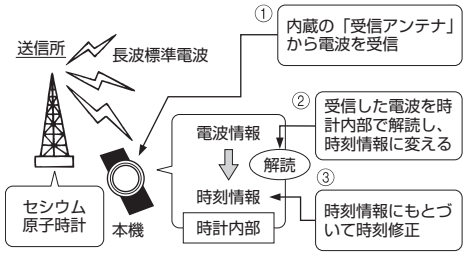
➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

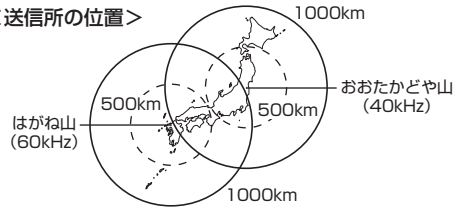
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます。（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）

* ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。都市コードについては「■ 都市コード一覧」参照。

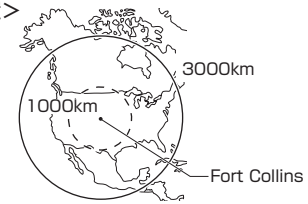
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼･夜）などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

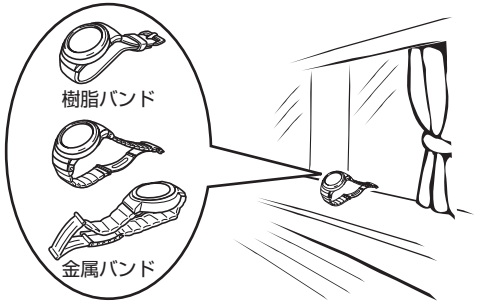
受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信（午前12･2･3･4時に自動受信します）
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※自動受信が一度も成功しなかった場合のみ午前5時に受信を行ないます。
※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

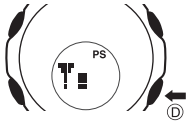
受信時間はおよそ２～６分です。
※ただし、受信電波の設定で「AUTO（自動選局）」を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大12分かかる場合があります。

* 受信電波の設定については「■ 受信電波の設定」参照。

●手動受信

時刻モードのとき

Ⓓボタンを約2秒間押し続けます



➡確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は受信インジケーターが表示され、受信状態によって変化します。

★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

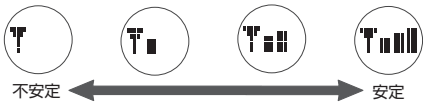
★受信が失敗すると（ERR 表示）

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。
※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。

●受信インジケーター

受信中は受信状態によって受信インジケーターが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。


受信インジケーター



※受信しやすい場所でも、安定するまで約 10 秒ほどかかります。

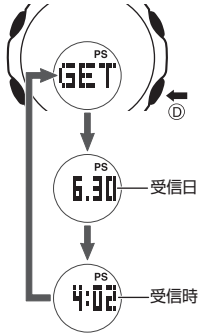
●受信インジケーターは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。
※“GET”と受信日、受信時は２秒ごとに切り替わって表示されます。
※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓓ ボタンを押します。
※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



■ 受信電波の設定

自動受信の ON／OFF を切り替えることができます。
なお、ホームタイム都市を TYO（東京）に設定しているときは、受信する電波を選ぶことができます。

* ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

※工場出荷時には、「ホームタイム都市＝TYO（東京）、受信電波＝ AUTO（自動選局）」でセットされています。
※ホームタイム都市が TYO、NYC、CHI、DEN、LAX のとき、以下の操作を行なうことができます。

1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します



➡受信日時を表示します。
※ 何も操作をしないと、1～2 分後時刻モードに戻ります。

2. セット状態にする

Ⓐボタンを約2秒間押します



➡表示が点滅して、受信電波の設定になります。

3. セットする

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押して、受信電波をセットします。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

※ 時刻モードに戻すには、Ⓓ ボタンを押します。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



★ホームタイム都市がTYOの場合

● AUTO 自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
● 40 自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」からの電波のみ受信します。
● 60 自動受信は ON になり、「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のみ受信します。
● OFF 自動受信は OFF になります。

★ホームタイム都市がNYC、CHI、DEN、LAXの場合

● ON 自動受信はONになり、コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。
● OFF 自動受信は OFF になります。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ部（針）が修正されます。
アナログ部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ部の時刻を合わせてください。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できません。

●電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波（JJY）は、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「■ 電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください。（「■ 使用場所について」参照）

●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、電波受信を行ないません。「■ セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●自動受信設定が OFF になっていませんか。
「■ 受信電波の設定」をご覧になり、自動受信設定をONに設定してください。

●自動受信を行なう時間帯（午前 12・2・3・4 時および5時）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいます。

●サマータイムの設定がONになっていませんか。「■ セットのしかた」をご覧になり、サマータイムの設定をOFFにしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっています。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。「■ セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 受信電波の設定ができません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、受信電波の設定を行なうことができません。「■ セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

6. 受信電波の設定でAUTOまたは40、60が表示されません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）以外の場合は、AUTO または 40、60 が表示されません。「■ セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

7. 自動受信は何時頃行なわれるのですか。

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

8. 手動受信のしかたは？

●時刻モードのときにⒹ ボタン（右下）を約2秒間押し続けます。“ピッ”と確認音が鳴って手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

9. 受信日時の確認のしかたは？

●時刻モードのときにⒹ ボタン（右下）を1回押します。電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓ ボタンを1回押します。

●電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。

※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

受信電波	AUTO	日本の標準電波（40kHz/60kHz）を自動選局
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AUTO	電波受信による自動切替

ワールドタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。

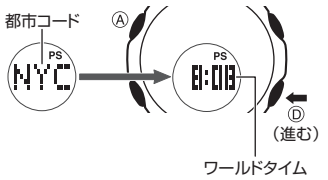
ご注意
ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。
* セットについては「■ セットのしかた」参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに都市コードが進みます。都市コードを表示後、その都市の時刻を表示します。
※押し続けると早送りします。



※Ⓐ ボタンを押すと、都市コードを約２秒間表示します。
※都市コードのないタイムゾーンでは、時差を表示します。

■サマータイム（DST）について

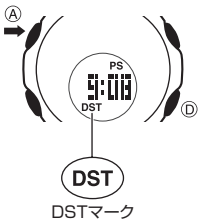
サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡Ⓐボタンを約2秒間押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。
※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、“GMT”とホームタイムで設定している都市を表示しているときはサマータイムの設定はできません。



■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
----	-11		JRS	+2	エルサレム
HNL	-10	ホノルル	JED	+3	ジェッダ
ANC	-9	アンカレジ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	-8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	-7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
CHI	-6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
NYC	-5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	-4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
RIO	-3	リオデジャネイロ	RGN	+6.5	ヤンゴン
----	-2		BKK	+7	バンコク
----	-1		HKG	+8	香港
GMT	+0	<グリニッジ標準時>	SEL	+9	ソウル
LON	+0	ロンドン	TYO	+9	東京
PAR	+1	パリ	ADL	+9.5	アデレード
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
CAI	+2	カイロ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2004年6月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

ストップウオッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

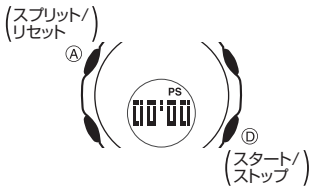
ストップウオッチは1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。

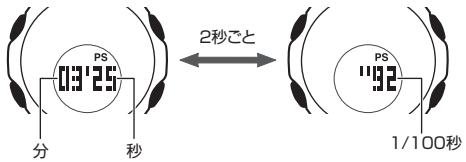


●表示について

• 計測中の表示
「分・秒」を表示します。



• 計測停止中の表示
「分・秒」表示と「1/100秒」表示が2秒ごとに切り替わって表示されます。



●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

計測終了後 Ⓐ ボタンを押すと、計測値が0 に戻ります（リセット）。

〈積算計測〉
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

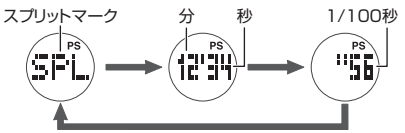
計測中に Ⓐ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

●1・2着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

スプリットタイム表示中に Ⓓ ボタンを押すと、スプリットタイムを表示したまま計測が停止します。
このとき Ⓐ ボタンを押すと、スプリット表示が解除され、停止した時間を表示します。

スプリット表示
スプリット計測中の表示は、スプリットマークと「分・秒」、「1/100秒」が切り替わって表示されます。



アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
Ⓒ ボタンを押し、アラームモードにします。

アラームモードでは、時分を設定でき、設定した時刻になると 10 秒間電子音が鳴ります。
また、毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。

■ 表示切替について

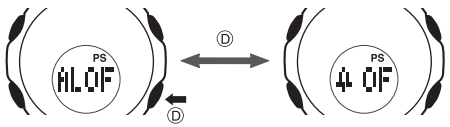
アラームモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにアラーム表示と時報表示とが切り替わります。

※ モードを切り替えた直後は、前回このモードで最後に見た方を表示します。

<アラーム表示> <時報表示>



※アラームOFFの場合。 ※時報OFFの場合。

■ アラーム時刻のセット

1. アラーム表示を選ぶ

アラームモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押してアラーム表示を選びます。

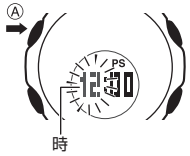


2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

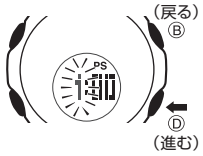
➡「時」が点滅します。

※ セット状態にすると、自動的にアラームが ON になります。



3. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）または 24 時間制にご注意ください。

※ ホームタイム（基本時刻）を 24 時間制にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制で表示されます。

4. 「分」のセットに切り替える

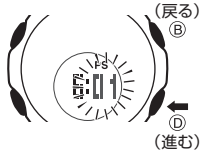
Ⓒ ボタンを押します

➡「分」が点滅します。



5. 「分」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

6. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ アラームの ON／OFF 設定

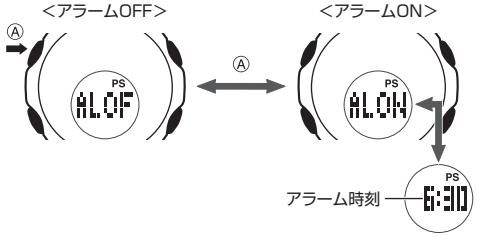
準備：アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、アラーム表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡アラームの ON／OFF が切り替わります。

※アラーム OFF のときは "ALOF" が表示されます。アラーム ON のときは "ALON" とアラーム時刻が交互に表示されます。

<アラームOFF> <アラームON>



■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■ モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

■ 時報の ON／OFF 設定

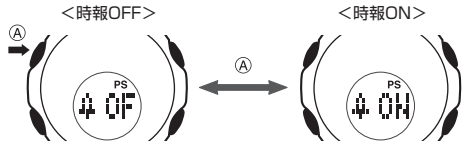
準備：アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、時報表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡時報の ON／OFF が切り替わります。

※時報 OFF のときは "4 OF" が表示されます。時報 ON のときは "4 ON" が表示されます。

<時報OFF> <時報ON>



ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。

※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

※パワーセービング機能の ON／OFF 設定も以下の操作で行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■ セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

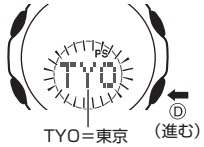
Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡都市コードが点滅します。



2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進みます。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

＊「■ 都市コード一覧」参照。

※ 押し続けると早送りします。

3. 「サマータイム切替」にする

Ⓒ ボタンを押します

➡サマータイムの切り替えになります。



4. 切り替える

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



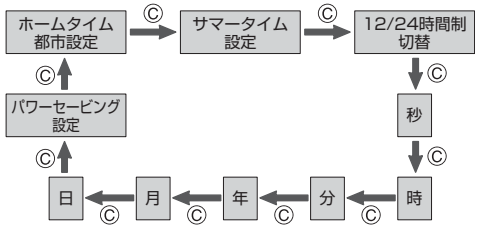
● AUTO 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。 ※ホームタイム都市がTYOのときは日本のサマータイム情報に、NYC、CHI、DEN、LAXのときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。 ※自動切り替えの設定はホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定されている場合のみできます。
● OFF サマータイムはOFFになります（通常時間）。
● ON サマータイムはONになります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

5. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。





6. 点滅箇所のセット

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24時間制切替」のとき

Ⓓボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。

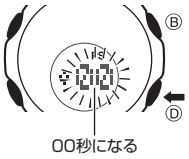


b.「秒」セットのとき

Ⓓ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

※秒が00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。(時報は「時報サービス117番」が便利です)

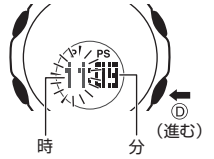
※秒が点滅しているときにⒷボタンを押すと、ライトの点灯時間を切り替えることができます(「■ 点灯時間の設定」参照)。



c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。

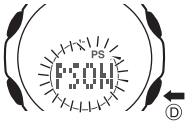
※押し続けると早送りができます。



d.「パワーセービング設定」のとき

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。

※パワーセービング機能をONにすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後 (P)、または24 時間制にご注意ください。

※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

＜シンクロ機能＞

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部（針）も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて時計回り（正転方向）に送られます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■ アナログ部（針）の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

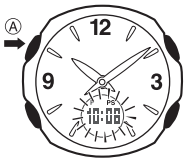
準備：「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、ハンドセットモードにします。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡「時・分」が点滅します。

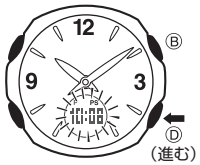


2. アナログ部を合わせる

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに時計回りに1/3分（20秒）ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度にアナログ針を合わせます。

※ 押し続けると早送りします。



＜針の自動早送り＞

●Ⓓボタンを押し続けて早送り中にⒷボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。

●自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

●針の早送り中にアラームなどが鳴り出すと針が停止します。報音終了後、再び動き出します。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。